

保安官の皆さんに



インタビュー

舞鶴で勤務する皆さんに、海上保安官を選んだきっかけや仕事内容などを伺いました。

舞鶴育ちで海が身近な存在だったこと、高校まで野球をしていたこともあり、体を動かしてかつ海に関わる仕事がしたいと考え、海上保安官を選びました。そして「船に乗るなら船長になりたい。なら航海科しかない」と考え、航海科を選びました。任務では、船ごとの特性を把握しながら、自然が相手なこともあり、細心の注意を払って操船しています。

海難救助が主な仕事だと思っていましたが、実際は密漁の取り締まりや油などの流出による環境汚染対策、災害対策と仕事内容の幅広さに驚きました。以前、鳥取県の境港で勤務していた時、漁船で人が漁具に巻き込まれたとの通報で救出に向かいました。残念ながらその人を救うことはできなかったのですが、遺族の方から感謝の手紙をいただき、この仕事の責任とやりがいを感じました。舞鶴に久しぶりに戻って、友達もたくさんいる環境になり、とてもうれしいです。



船の運転を担う
航海科

巡視船わかさ
櫻井 義之さん

父親が海上保安官なので、海上保安庁の仕事はとても身近にありました。舞鶴勤務は6年目ですが、父が舞鶴勤務だった幼稚園～小学4年の間住んでいたこともあります。この職に就く前に、1年間は警察官をしていました。どちらも公安に携わる仕事ですが、海に関わり、仕事も海上、陸上それぞれ多岐にわたり、幅広い仕事ができることが魅力だと考え、海上保安庁に転職しました。

主計科は、庶務や経理のほか、食事を担当しています。料理が好きだったこともあるのですが、長い航海では船内の食事は大きな楽しみの一つです。食事で船員の士気を高められればと、主計科を希望しました。洋食料理が得意です。巡視船わかさは「特警船」なので、日々、体力づくりにも励んでいます。休日は、妻と子ども3人で出掛けるなど、家族と過ごすことが多いです。



調理など幅広くを担う
主計科

巡視船わかさ
片山 圭さん



舞鶴海上保安部の巡視船・巡視艇図鑑

巡視船たいせん (3,100ト)

巡視船わかさ (1,250ト)

巡視船みうら (3,000ト)

巡視船ふそう (5,300ト)

巡視艇あおい (26ト)

巡視艇ゆらかぜ (23ト)

海上保安官になって6年目です。今は陸上勤務で船員の調達や燃料、物資の管理などを行っています。京都市で生まれ育ち、高校卒業後は大学にでも行こうかなと漠然と考えていた時に、東日本大震災が発生。ニュースで、救助活動を行う女性海上保安官の姿が映し出されました。「私もあんなにかっこいい女性になりたい」と思い、海上保安官を目指しました。初めは慣れない海上での勤務に戸惑いましたが、今ではしっかり業務を行うことができるようになりました。荒れた海の救助活動に出た時、救助で手薄になった巡視船の操船を任せられ責任の重さを感じたと同時に、任せてもらえることがうれしかったことを覚えています。海上保安官の仕事は、男女関係ありません。今はいろいろな部署で経験を積みたくと思っています。数日休みがあると京都の実家に帰るのですが、舞鶴は意外と近くて便利だと思っています。



船員サポートや地域交流
陸上勤務

管理課渉外係
森迫 郁香さん



▲機関科は機関室でエンジンやそれにつながる発電機の整備・管理を行う



潜入！巡視船わかさ 舞鶴唯一の特警船



▲放水銃を備え、消火のほか、退去の警告を無視した違法操業船などに放水することも

海の治安を守っている巡視船(艇)に潜入。船上での海上保安官の仕事の調査してきました。

巡視船「わかさ」は、第八管区唯一の警備実施等強化巡視船(特警船)で、重要な警備事案に対応するため、暴動鎮圧や証拠採集に長けた海上保安官が乗船しており、装備も強化されています。特別警備隊は、海の機動隊といえる部隊で、わかさ船内では複数の小隊を編成し、乗組員は通常職務と警備隊の任務を併任しています。乗組員は大きく「航海・機関・通信・主計」の4つの役割に分かれており、航海科は船橋で航海長の指揮のもと操船や海図の確認などを数人で分担して船を運航します。機関科は機関室でエンジンの運転やメンテナンスなどを担当。通信科は、他の巡視船や一般船舶との無線での通信や通信機器の整備などを行います。日本沿岸といっても

船の運航は部門ごとに役割分担されていますが、救助や立ち入り検査などは、海上保安学校で学んでいるため、どの船員も対応できる体制になっています。このように、部門ごとのスペシャリストが力を合わせて、また、全員が共通業務もできるという体制で、巡視船は今日も日本の海を守っています。



▲主計科は庶務や調理、看護、物品の管理、調達などさまざまな仕事を行う

外航船の船籍はさまざま。やりとりは英語で行います。また、隣国の言語(韓国語、中国語、ロシア語)の研修を受け、国際捜査官になる職員もいます。主計科は庶務や経理、物品管理、調理、看護など、さまざまな仕事を担います。乗組員の食事は主計科が3人で毎食約30食を用意します。献立は船ごとに「補給長」が考えるため、船によって異なります。人気メニューは入港にあわせて昼に振る舞われる「入港カレー」だとか。



▲通信科は無線のほか、航空機からの情報を船内や陸上の管区海上保安部へ伝送する「目と耳」の役割を担う



▲操舵室の後ろには航空機からの映像や監視装置の情報を基に対処方針を立案するOIC(オペレーション室)がある



▲航海科は、操船や見張り、海図の確認など船の運航を担う